

「文化部活動の実態把握に関する調査」 アンケート結果

【実施概要】

1. 調査期間

平成30年8月24日（金）～9月5日（水）

2. 調査方法

文化庁より、各都道府県教育委員会、各指定都市教育委員会及び各都道府県私立学校主管部局経由で本調査を依頼し、調査対象校の文化部活動顧問がWebページより回答した。

※ 可能な限りにおいて調査対象校に属するすべての文化部活動について回答を依頼した。

3. 調査対象校

文化部活動の顕著な活動実績のある学校として、以下の学校に協力依頼を行った。

<調査対象の選定基準>

中学校…全国中学校総合文化祭の直近2か年の出場校	44校
高等学校…文化部活動事例集の直近2か年の執筆協力校	37校

4. 回収数

中学校…35校（82部）※うち、上記選定基準の根拠となった部活動は26部

高等学校…33校（277部）※うち、上記選定基準の根拠となった部活動は27部

5. 調査項目

- ・通常学期期間中の平日の平均的な活動日数
- ・平日/土曜日/日曜日のそれぞれの一日当たりの平均的な活動時間
- ・長期休業期間中の平均的な一週間当たりの活動日数と一日当たりの活動時間
- ・「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」（平成30年3月スポーツ庁）を踏まえて、休養日や活動時間等で見直したものとその理由、または見直していない理由について
- ・「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」（平成30年3月スポーツ庁）を踏まえてすでに取り組んでいること、取り組むべき課題
- ・教員の指導力向上のために取り組んでいること、取り組むべき課題
- ・教員の指導力向上のための研修会の必要性と、研修会に参加するにあたっての課題
- ・部活動指導員・外部指導者を確保するために取り組んでいること、取り組むべき課題
- ・地域、文化団体との連携について取り組んでいること、取り組むべき課題
- ・保護者との連携ですでに取り組んでいること、取り組むべき課題
- ・その他、文化部活動に関するガイドライン作成にあたって、求めることや課題（自由記述）

【調査結果概要】

1. 回答団体の属性

○活動内容

活動の種類	該当部活動数		
	中学	高校	合計
演劇	14	12	26
合唱	7	10	17
吹奏楽	10	17	27
器楽・管弦楽	3	5	8
日本音楽（箏曲）	2	4	6
郷土芸能	2	3	5
マーチング・バトン	0	3	3
美術・工芸	12	19	31
書道	1	14	15
写真	1	14	15
放送	5	12	17
囲碁・将棋	3	10	13
弁論	0	0	0
かるた	1	5	6
文芸	1	12	13
自然科学	2	30	32
茶道・華道	5	27	32
ESS	0	13	13
新聞	0	6	6
家庭	2	10	12
ボランティア	0	9	9
その他（Aグループ）	3	14	17
その他（Bグループ）	8	28	36

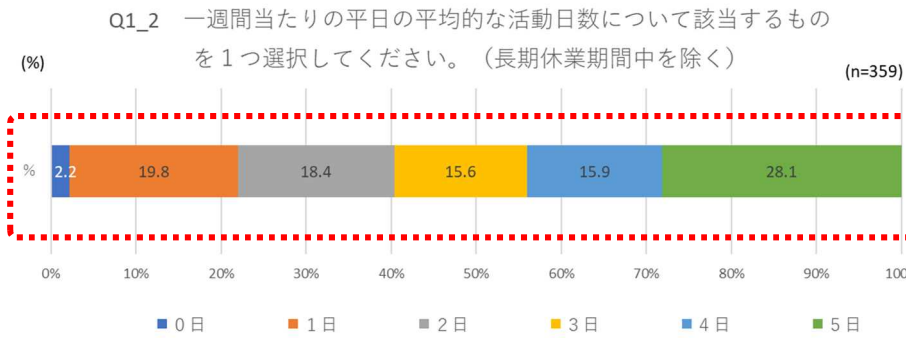
※その他（グループA）は音楽系の部が中心

※その他（グループB）は上記以外の部

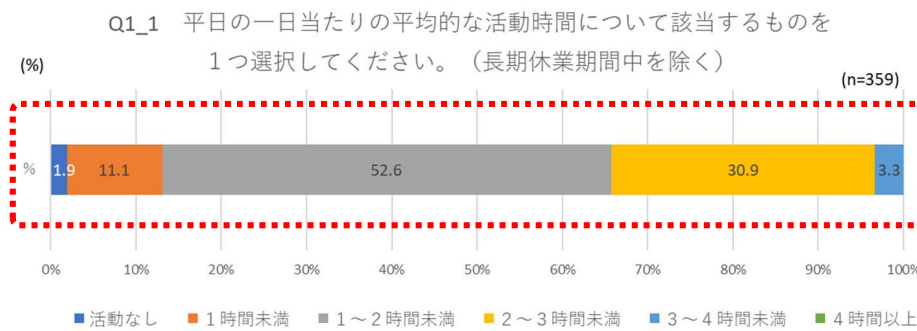
○部員数

	人数（人）
最小値	0
最大値	120
平均値	22.95

2. 平日の平均的な一週間当たりの活動日数と一日当たりの活動時間



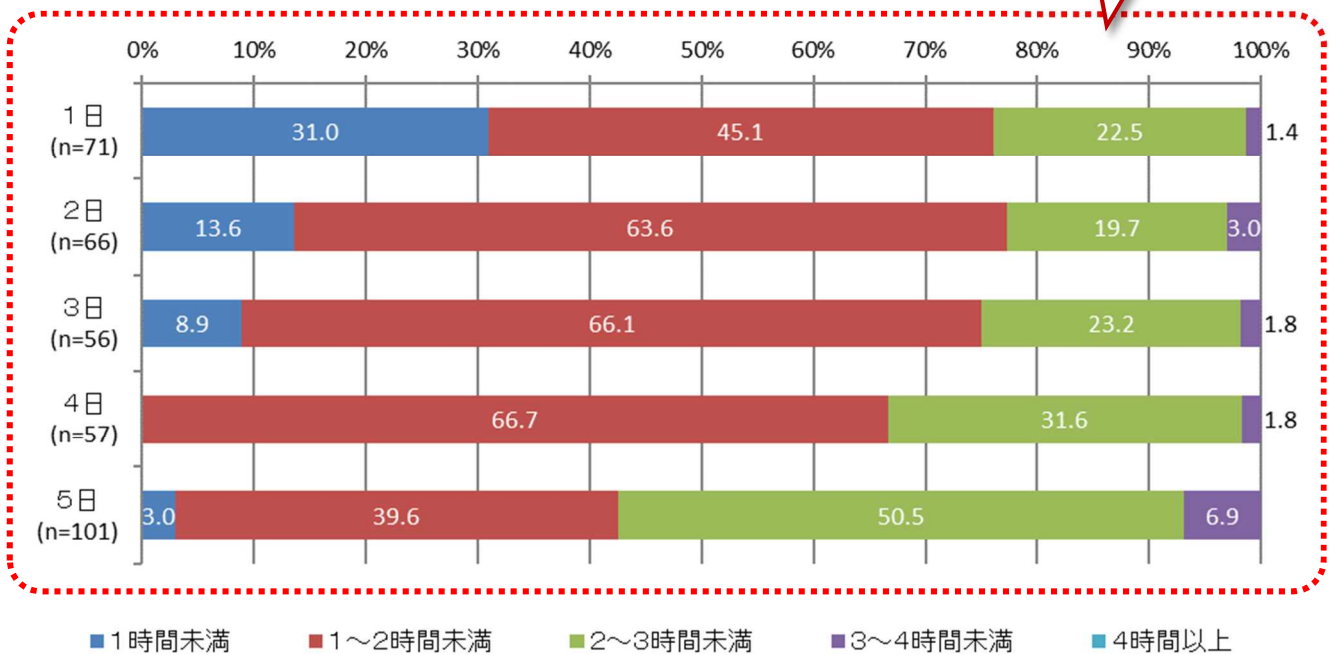
平日の活動日数は
1～5日まで様々



1～2時間が
半数以上で最も多い

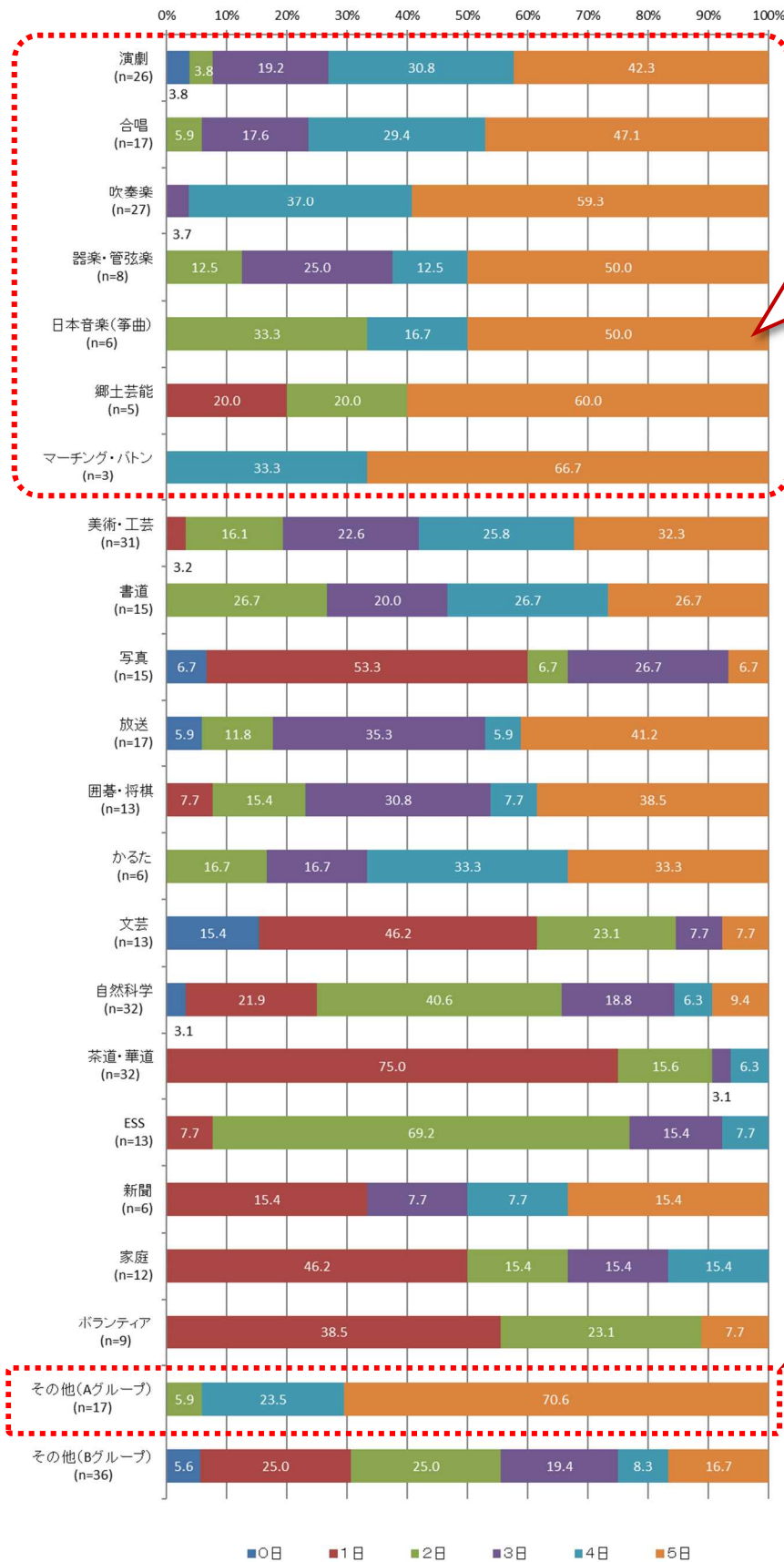
【クロス集計】

一週間当たりの平日の平均的な活動日数別の
平日の一日当たりの平均的な活動時間



概ね活動日数が多いほど
活動時間も長くなる
傾向がみられる

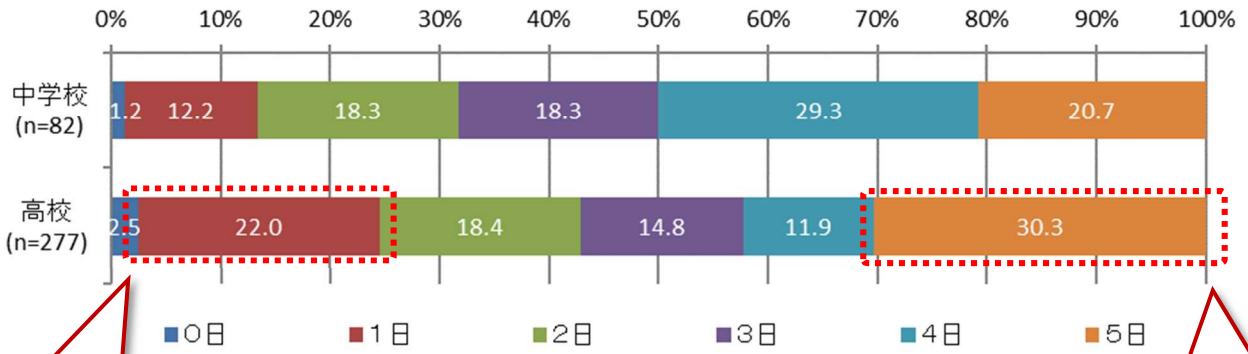
活動内容別の
一週間当たりの平日の平均的な活動日数



半数以上が平日5日活動する部活動としては、「演劇」「合唱」「吹奏楽」「器楽・管弦楽」「日本音楽(箏曲)」「郷土芸能」「マーチング・バトン」が挙げられる。

「その他」の中でもAグループ(音楽系)の部活動は7割以上が平日5日活動している。

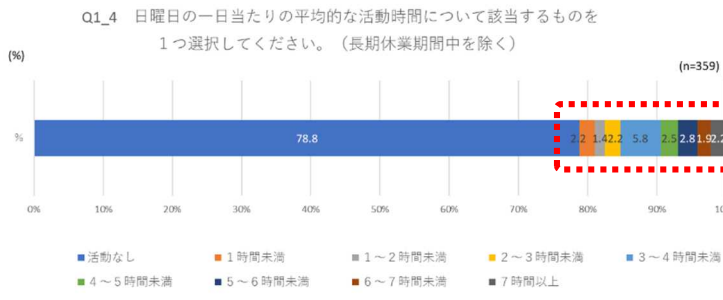
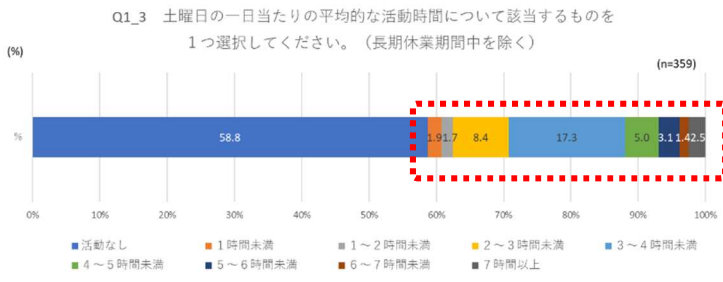
中学校・高校別の
一週間当たりの平日の平均的な活動日数



平日1日しか活動しない部活動は
中学校よりも高校の方が割合が高い

平日5日活動する部活動は
中学校よりも高校の方が割合が高い

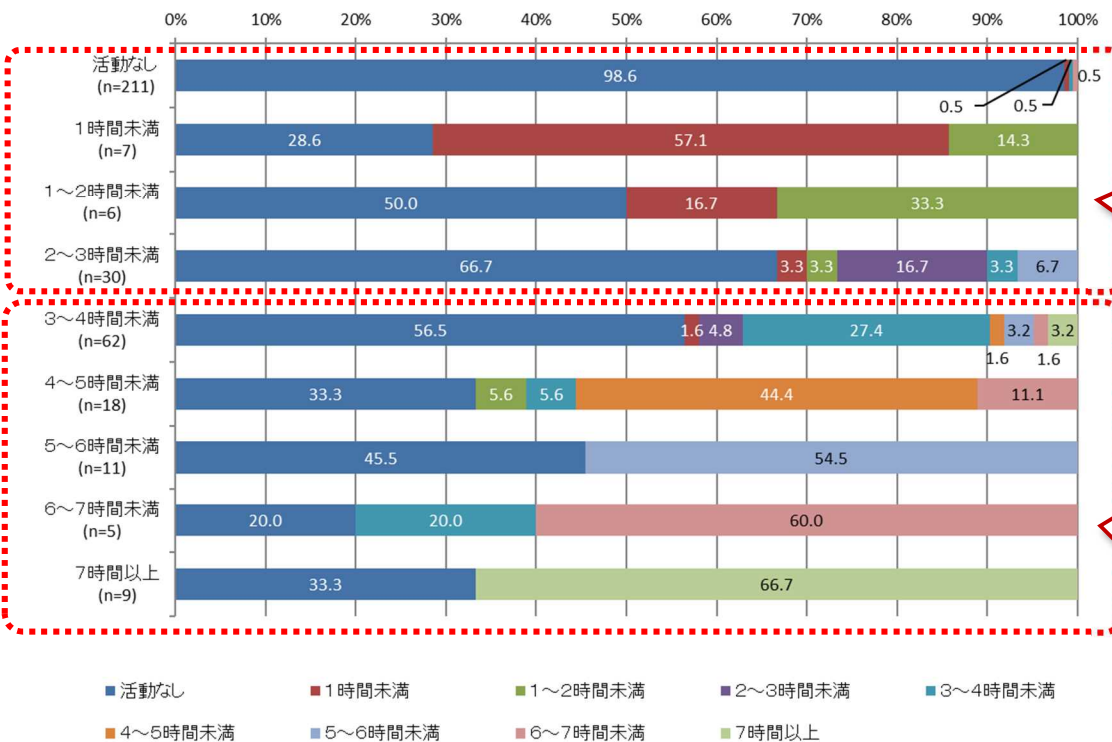
3. 土曜日・日曜日の一日当たりの平均的な活動時間



全体としては
土曜日よりも日曜日の方が
活動時間が長い部活動は少なくなる

【クロス集計】

土曜日の一日当たりの平均的な活動時間別の
日曜日の一日当たりの平均的な活動時間

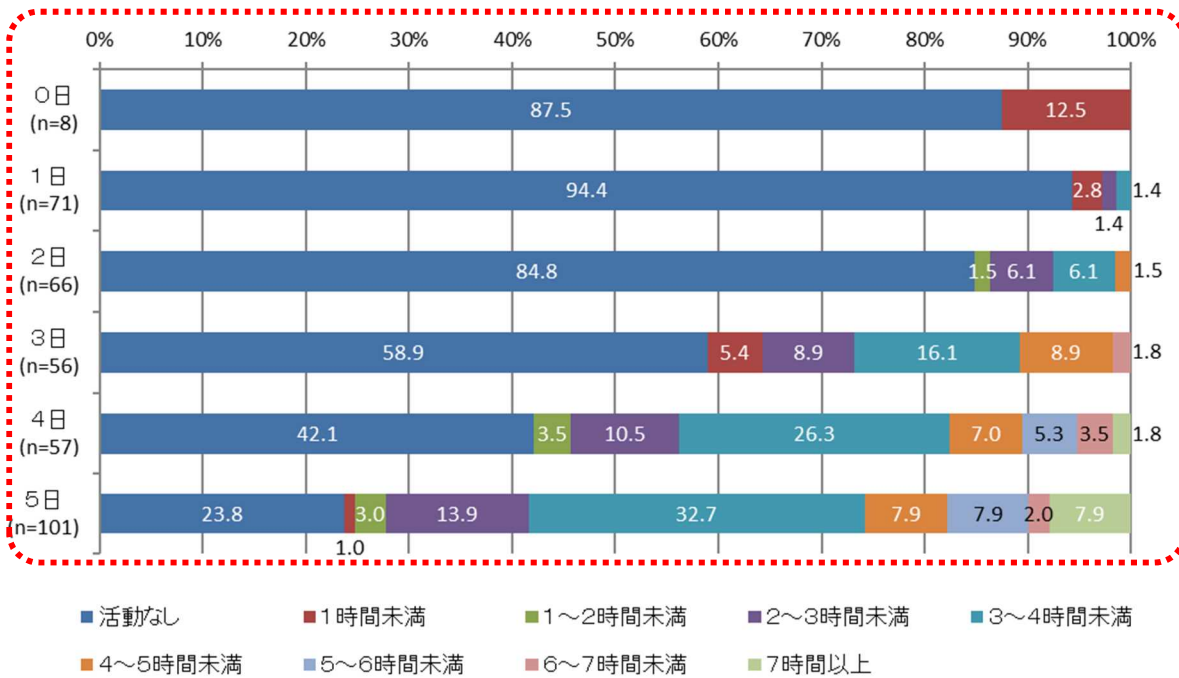


土曜日の活動時間が
少ない部活動は、
日曜日の活動時間も
少ない傾向がみられる

土曜日の活動時間が
多い部活動は、
日曜日の活動時間は
少ない(活動しない)か
同様に多いかの二極
化の傾向がみられる

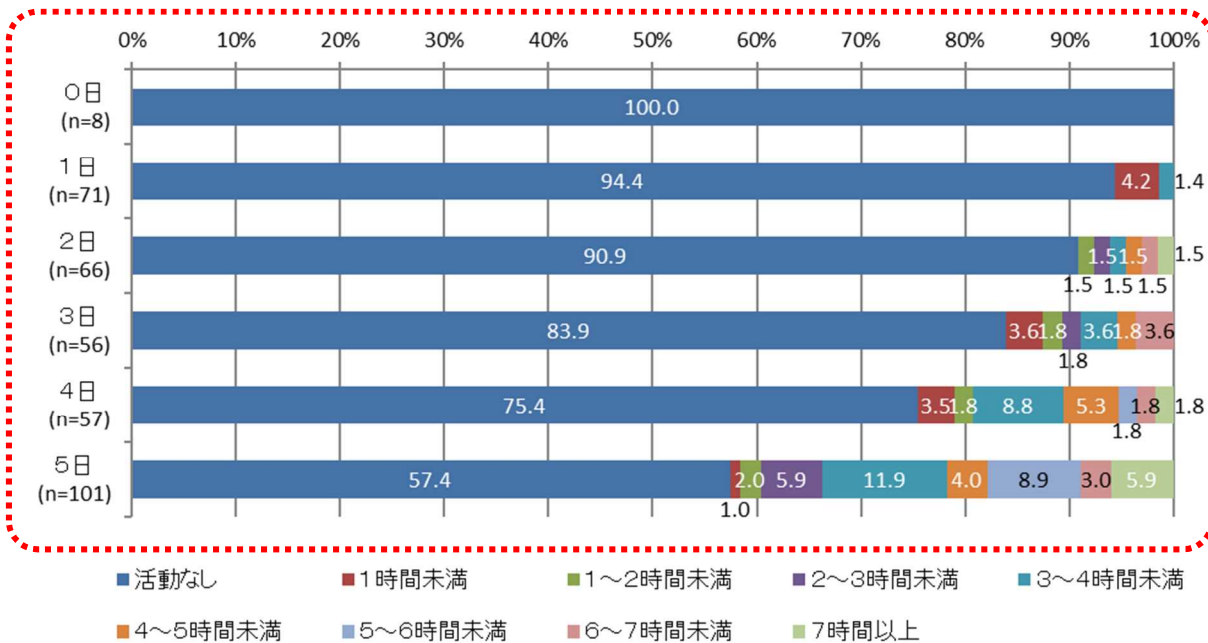
※参考
【土曜日 7 時間 & 日曜日 7 時間】6 団体の内訳
吹奏楽 4 団体、軽音楽 1 団体、マーチングバンド 1 団体
【土曜日 6 時間 & 日曜日 6 時間】3 団体の内訳
吹奏楽 3 団体
【土曜日 5 時間 & 日曜日 5 時間】6 団体の内訳
吹奏楽 2 団体、演劇 2 団体、合唱 1 団体、バトントワリング部 1 団体

一週間あたりの平日の平均的な活動日数別の
土曜日の一日あたりの平均的な活動時間

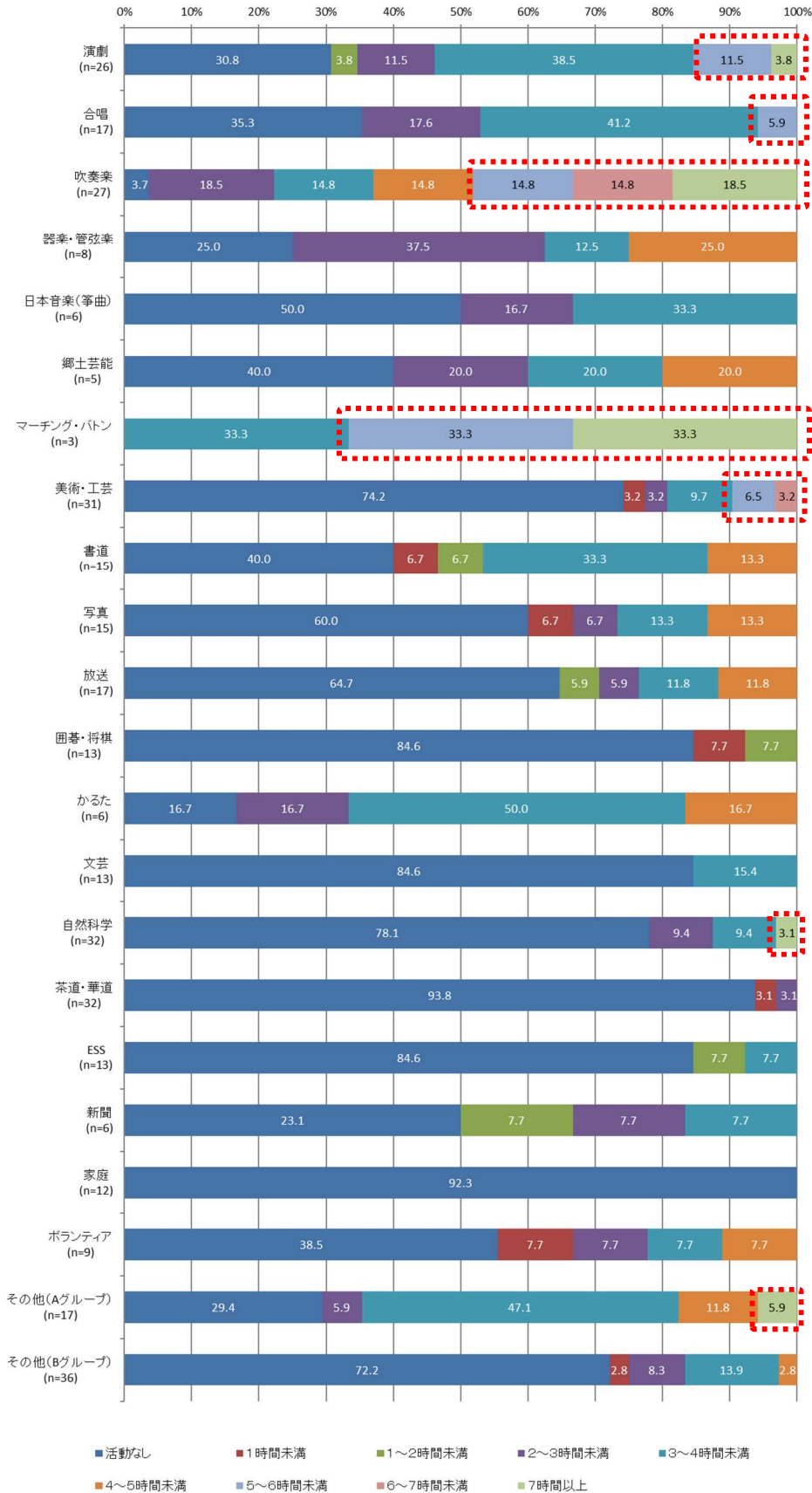


土曜日・日曜日ともに、
平日の活動日数が多いほど、
土日の活動時間も多くなる傾向が
みられる

一週間あたりの平日の平均的な活動日数別の
日曜日の一日あたりの平均的な活動時間



活動内容別の
土曜日の一日当たりの平均的な活動時間

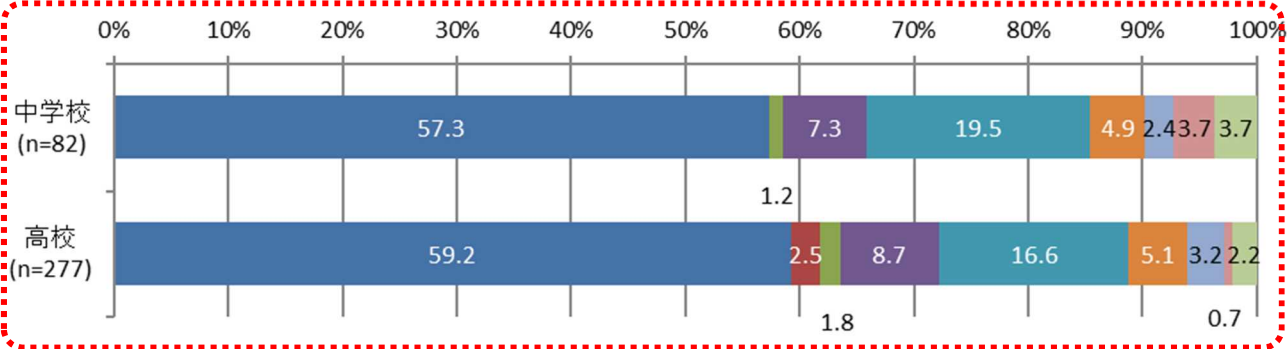


土曜日の活動時間が
5時間以上の団体がみられるのは
「演劇」「合唱」「吹奏楽」
「マーチング・バトン」
「美術・工芸」「自然科学」
「その他(Aグループ)」である

このうち
「吹奏楽」と「マーチング・バトン」は
特にその割合が高くなる

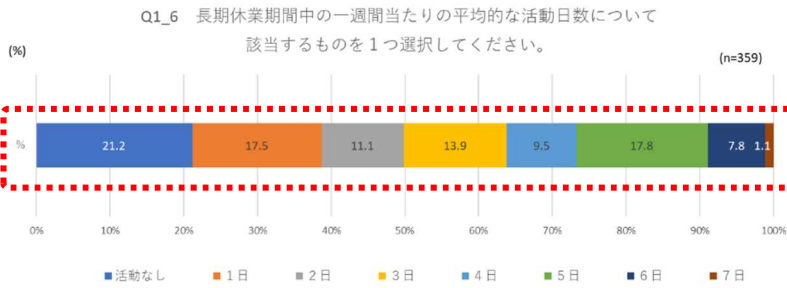
中学校と高校で
大きな傾向の差はみられない

中学校・高校別の
土曜日の一日当たりの平均的な活動時間

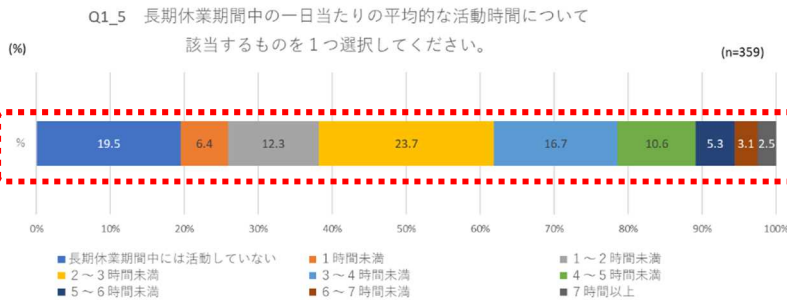


- 活動なし
- 1時間未満
- 1~2時間未満
- 2~3時間未満
- 3~4時間未満
- 4~5時間未満
- 5~6時間未満
- 6~7時間未満
- 7時間以上

4. 長期休業期間中の平均的な一週間当たりの活動日数と一日当たりの活動時間



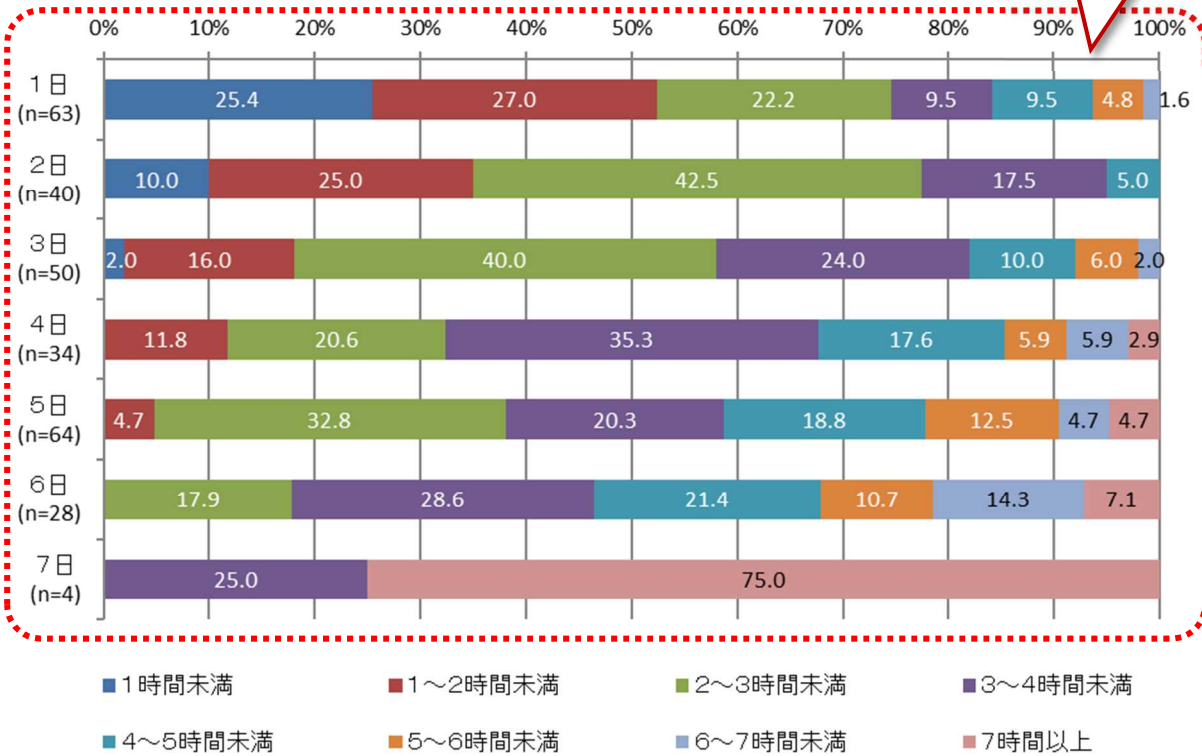
長期休業期間中の活動日数は1～7日まで様々



長期休業期間中の活動時間は多様であるが2～3時間が最も多い

【クロス集計】

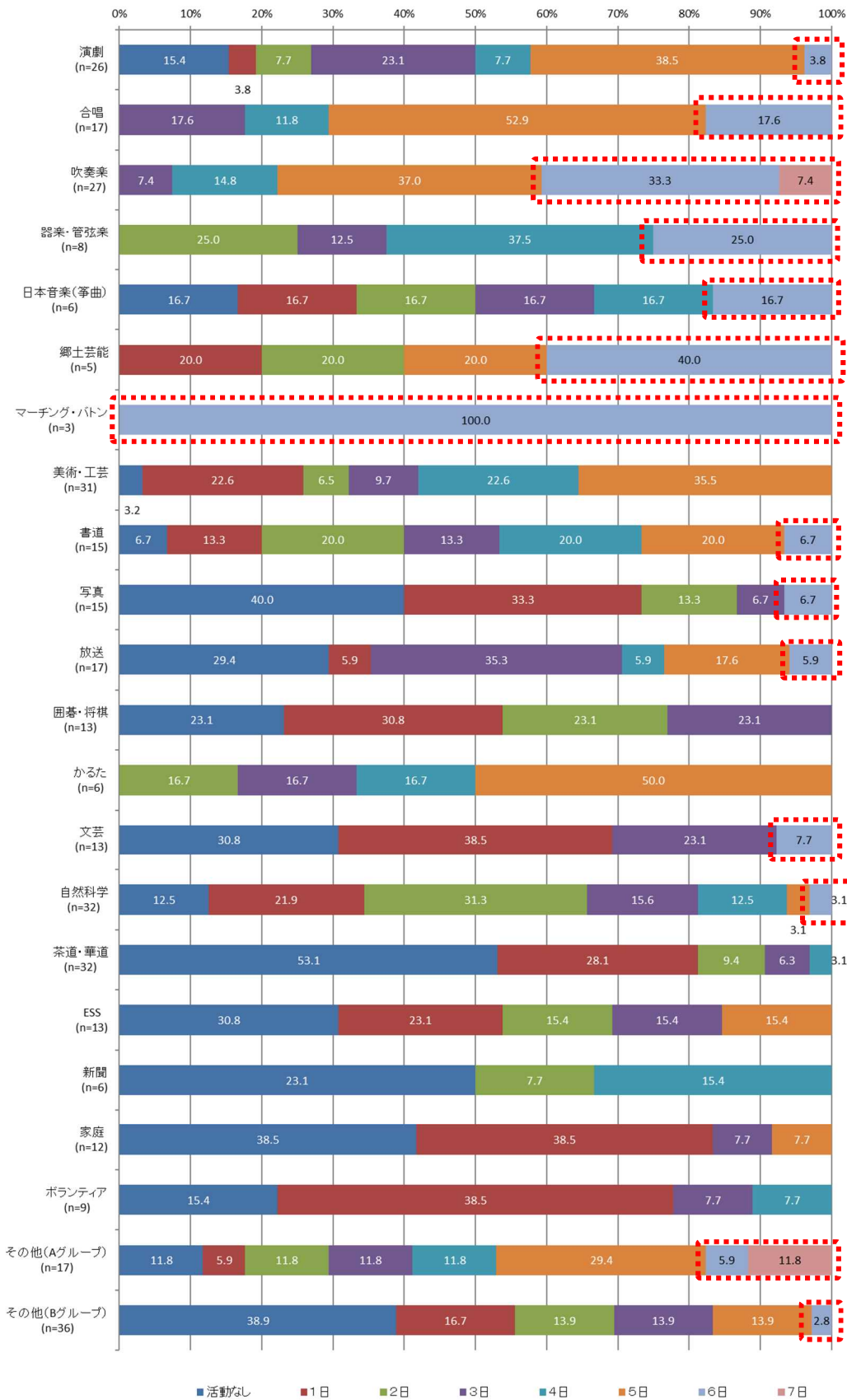
長期休業期間中の一週間当たりの平均的な活動日数別の長期休業期間中の一日当たりの平均的な活動時間



概ね活動日数が多いほど活動時間も長くなる傾向がみられる

※参考
【7日×7時間以上】3団体の内訳
吹奏楽2団体、軽音楽1団体
【7日×3～4時間】1団体の内訳
合唱部と吹奏楽部
【6日×7時間以上】2団体の内訳
吹奏楽1団体、マーチングバンド1団体
【6日時間×6～7時間】4団体の内訳
吹奏楽3団体、科学部1団体

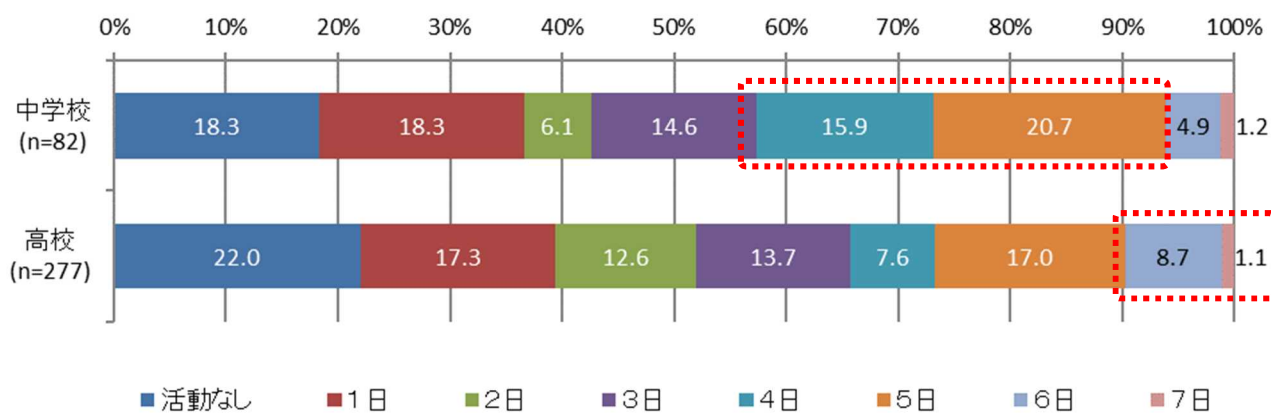
活動内容別の
長期休業期間中の一週間当たりの平均的な活動日数



長期休業期間中の活動日数が6日以上の方がみられるのは「演劇」「合唱」「吹奏楽」「器楽・管弦楽」「日本音楽(箏曲)」「郷土芸能」「マーチング・パトン」「書道」「写真」「放送」「文芸」「自然科学」「その他」である

このうち「吹奏楽」と「郷土芸能」「マーチング・パトン」は特にその割合が高くなる

中学校・高校別の
長期休業期間中の一週間当たりの平均的な活動日数

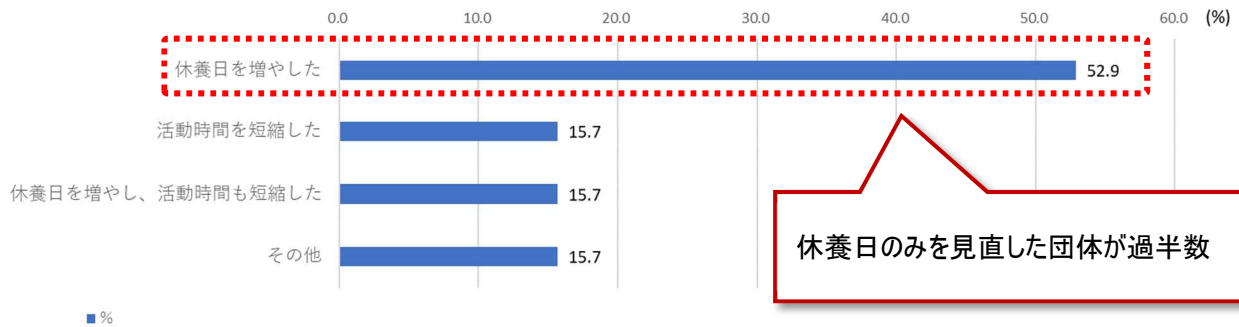


長期休業期間中の活動日数は全体的には中学校の方が多い。
4～5日活動する団体は中学校の方が割合が高い一方で
6日以上活動する団体は高校の方が割合が高くなる

5. 「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」(平成30年3月スポーツ庁)を踏まえて、
休養日や活動時間等で見直したものについて

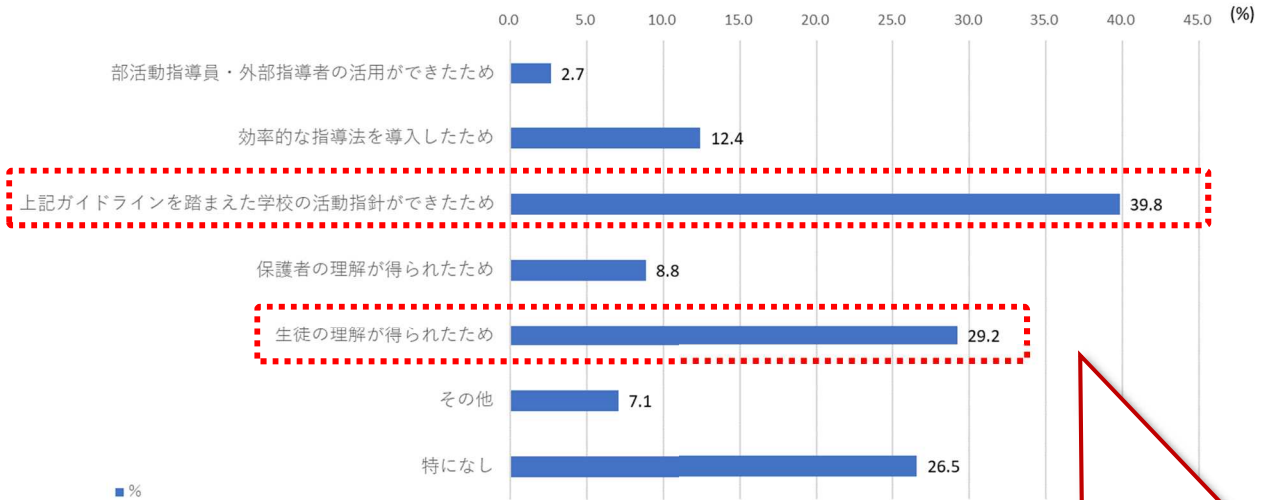
Q2_1 「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」を踏まえて、
休養日と活動時間のどちらを見直したのか該当するものを1つ選択してください。

(n=359)



Q2_2 「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」を踏まえて休養日や活動時間を見直すことができた理由について該当するものをすべて選択してください。

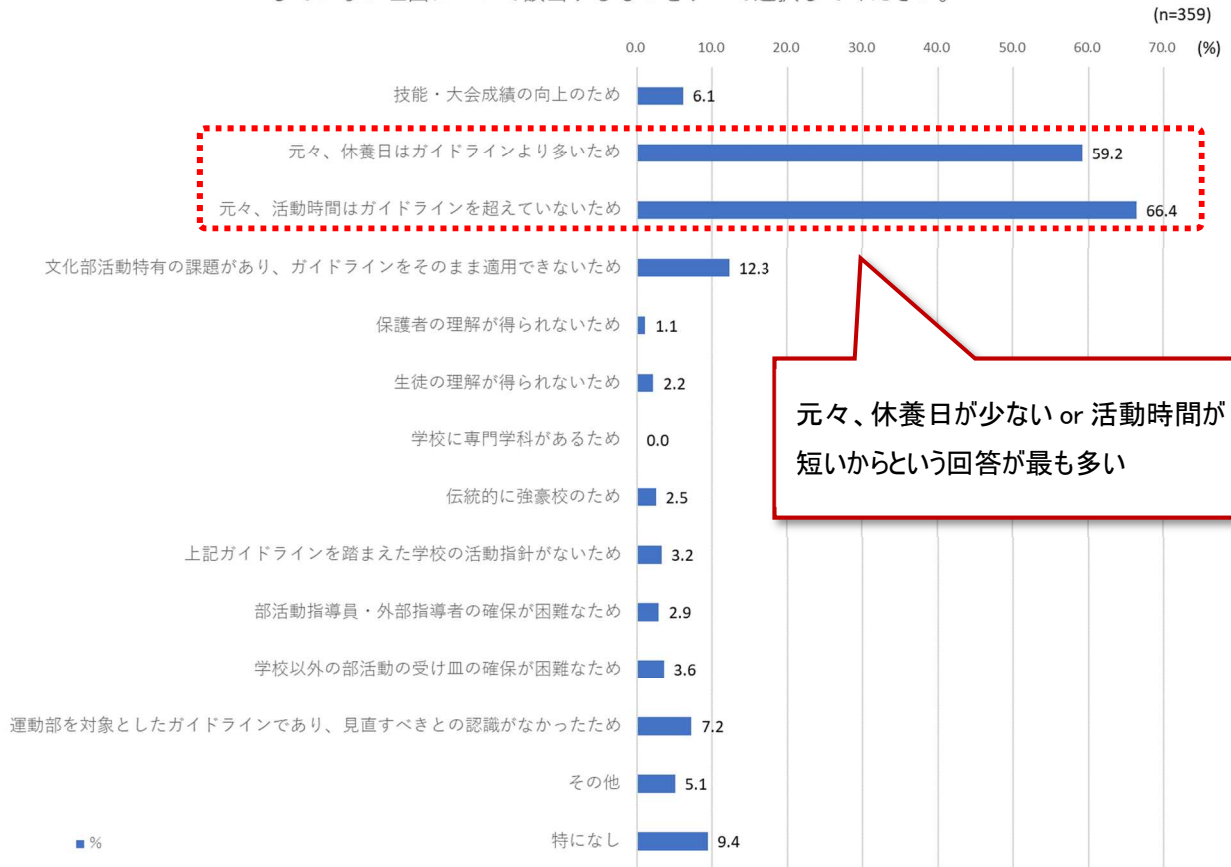
(n=359)



※「その他」の主な回答

- ・ 県や市の方針が示されたため【2件】
- ・ 勉強とのバランスを取り、他の教員等からの理解が得られるようにするため

Q2_3 「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」を踏まえて休養日や活動時間を見直していない理由について該当するものをすべて選択してください。



※「その他」の主な回答

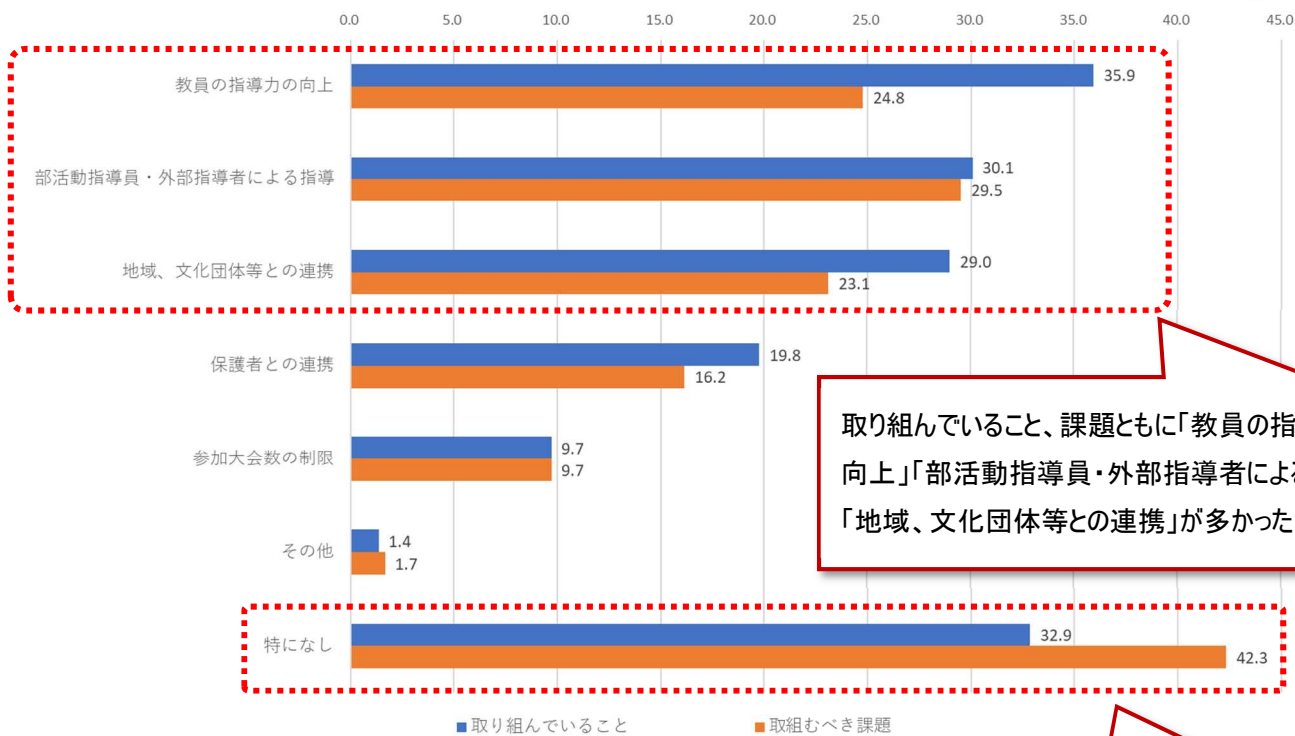
- ・部門別に部員がそれぞれ自主的に休みを設定したり、部員の要望に応じて柔軟に対応したりしているため【3件】
- ・大会の前後で休養の量を調整しているため【2件】
- ・外部からのボランティア要請を断るのが申し訳ないため
- ・人事異動で顧問が変わり、様子を見るために例年通りとしているため

6. 「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」（平成30年3月スポーツ庁）を踏まえてすでに取り組んでいること、取り組むべき課題

Q3_1 「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」（平成30年3月スポーツ庁）を踏まえてすでに取り組んでいること、取り組むべき課題について
該当するものをすべて選択してください。

(n=359)

(%)



取り組んでいること、課題ともに「教員の指導力の向上」「部活動指導員・外部指導者による指導」「地域、文化団体等との連携」が多かった

一方で「特になし」という回答も多かった

※ 「その他」の主な回答

取り組んでいること

- ・ 顧問教諭の配置増員
- ・ 活動費の確保
- ・ 他校（中学・高等学校）との連携
- ・ 部活動は生徒自身も主体的に取り組むべき活動だと認識させる意識改革

取り組むべき課題

- ・ 教員負担の軽減（顧問教諭の配置の増員・兼務の廃止）【3件】
- ・ 全生徒の部活動強制入部の廃止

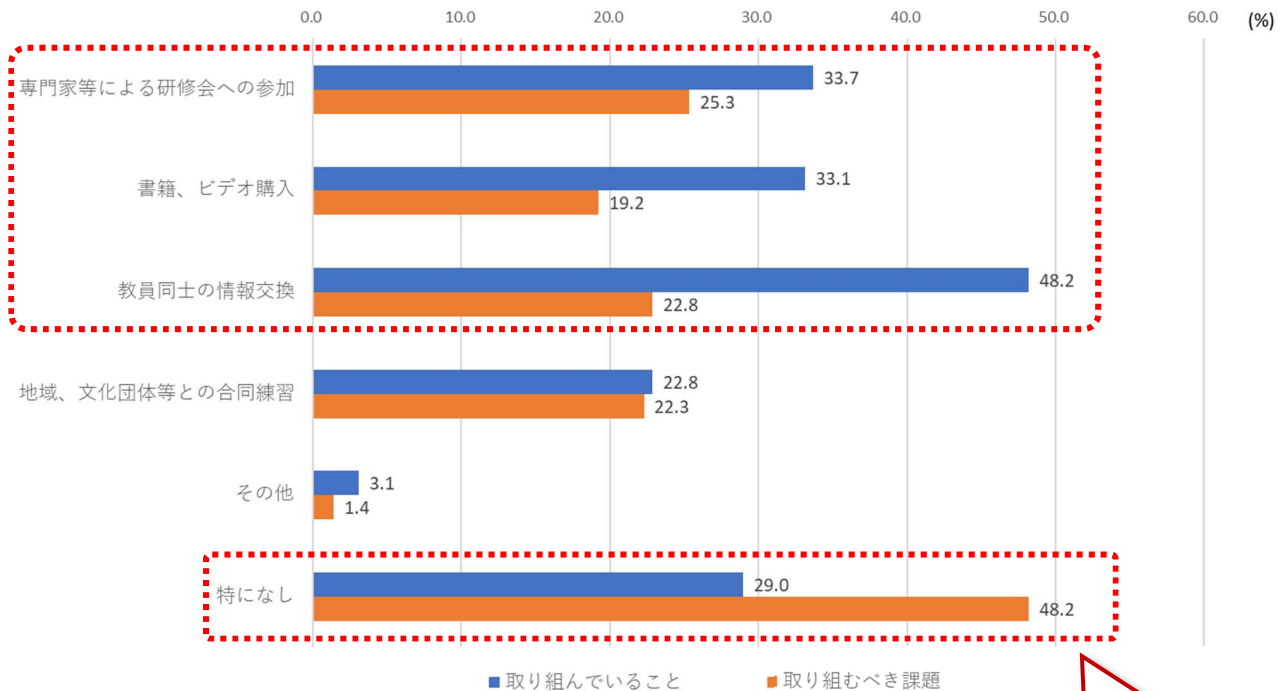
7. 教員の指導力向上のために取り組んでいること、取り組むべき課題

Q3_2 教員の指導力向上のために取り組んでいること、取り組むべき課題について

該当するものをすべて選択してください。

(n=359)

60.0 (%)



※「その他」の主な回答

取り組んでいること

<情報収集等>

- ・プロの公演、公開展示等の見学・鑑賞【3件】
- ・シンポジウムへの参加
- ・教養 TV 番組の視聴等による自己研鑽
- ・インターネット等での情報収集

<自主活動>

- ・創作活動（作品発表）

<外部指導者による技術指導>

- ・常駐しているネイティブスピーカーとの指導計画共同作成
- ・教員が私的に（私費で）専門家の指導を受ける。
- ・指導力向上のための講習会の講師を務めることがある。
- ・オンライン講座の受講

取り組むべき課題

- ・複数の教員で、生徒たちを指導できるような体制づくり
- ・学校外での場所で作品の展示

取り組んでいることとして、
「教員同士の情報交換」
「専門家等による研修会への参加」
「書籍、ビデオ購入」が多かった
課題としては「特になし」が最も多かった

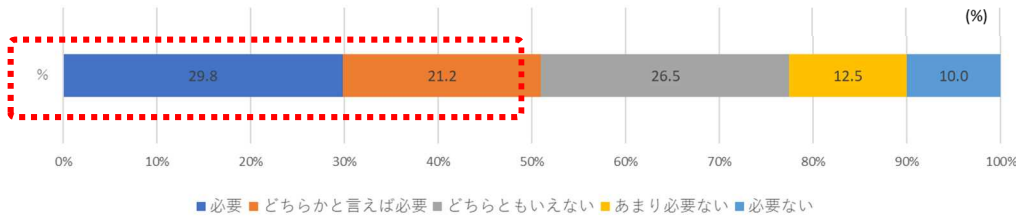
8. 教員の指導力向上のための研修会について

○必要性

「必要」「どちらかと言えば必要」という意見は合わせて約半数程度であった

Q3_3 教員の指導力向上のための研修会の必要性について
該当するものを1つ選択して下さい。

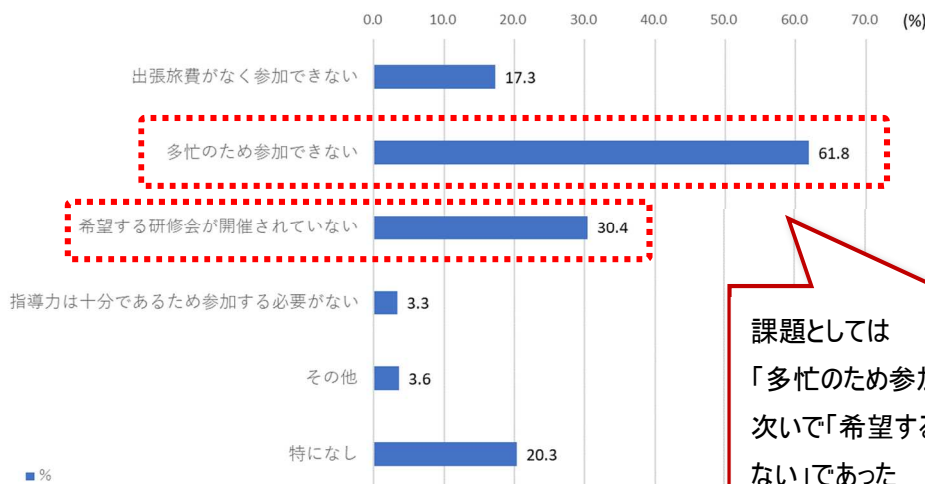
(n=359)



○課題

Q3_4 上記研修会に参加するにあたっての課題について
該当するものをすべて選択してください。

(n=359)



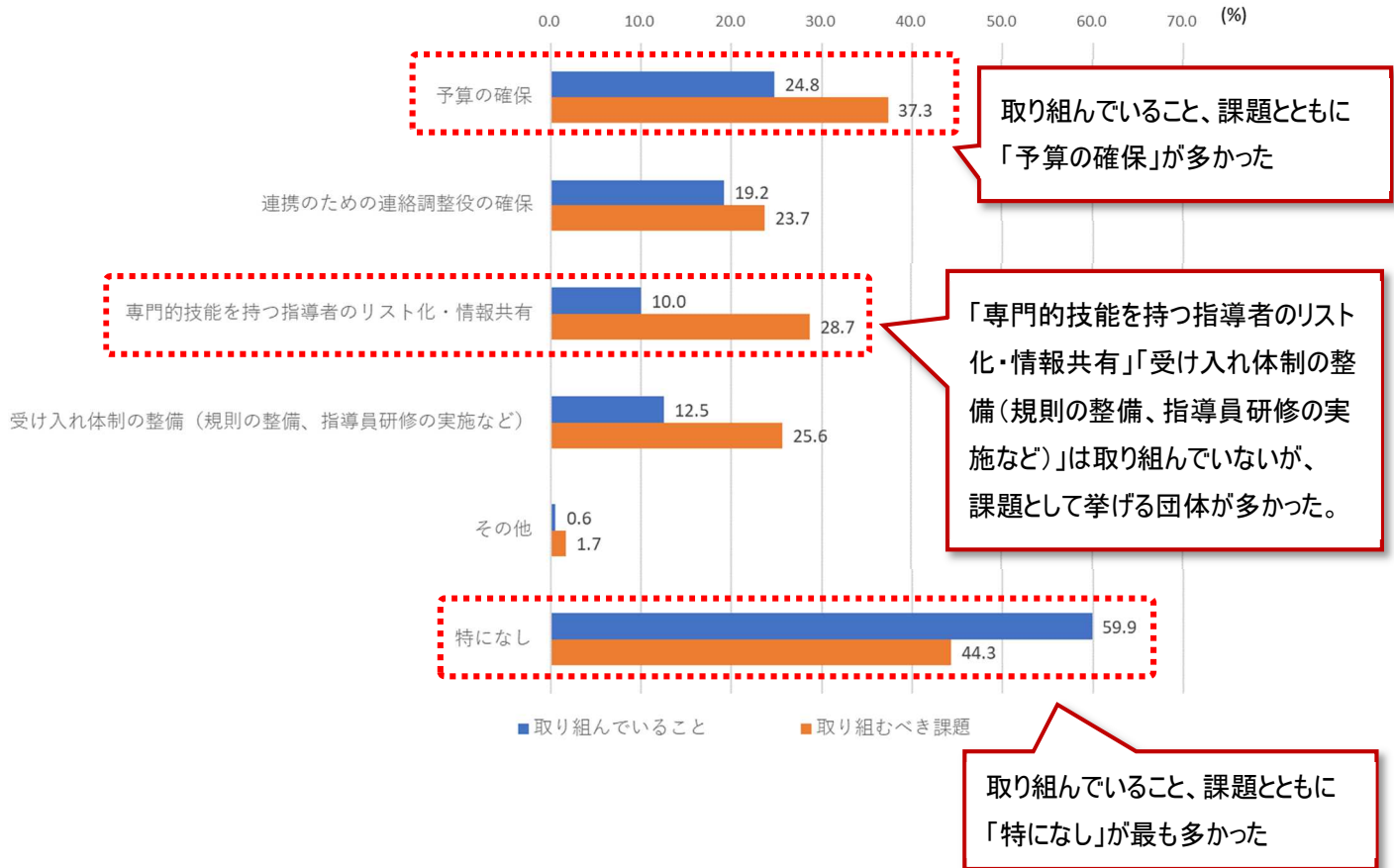
課題としては「多忙のため参加できない」が最も多く、次いで「希望する研修会が開催されていない」であった

※「その他」の主な回答

- ・担当教科と異なる部の顧問であるという理由で、研修会に自己参加せざるを得ない。
- ・もともと学校の教育課程に美術が無いし、美術の教諭が少ないので、他教科の教員を顧問に当てている。顧問決定の打診もない。学校は運動部優先なので、去年は生徒の地域での合同練習会（宿泊）にさえ、お金がでなかった。
- ・専門ではない分野の部活動顧問であれば、研修することが義務になるということもあるので。
- ・希望するものは、研修会、というよりも本格的な短歌や俳句の結社への所属となるため、敷居が高い。
- ・県外での研修は、予算的に無理である。学校への派遣事業が実施されているが、手続きがもっと容易に出来るようになれば活用しやすくなると思う。
- ・開催地が遠方であることが多い。
- ・参加した場合、代わりに指導監督する人員がいない
- ・教員の指導力の向上心、向学心、やる気、部活動という組織の運営力、マネジメント力が不足しているという自覚
- ・必要でない【2件】
- ・そもそも部活動は教育課程に認められていない。仕事ではないがやりたいからやっているとみなされる、いわば「ボランティア」である部活動であるのに、顧問になることを強いられ、その上研修に出てまで努力せねばならない雰囲気や、そういった社会の認識に賛成できない。

9. 部活動指導員・外部指導者を確保するために取り組んでいること、取り組むべき課題

Q3_5 部活動指導員・外部指導者を確保するために取り組んでいること、
取り組むべき課題について該当するものをすべて選択してください。 (n=359)



※「その他」の主な回答

取り組んでいること

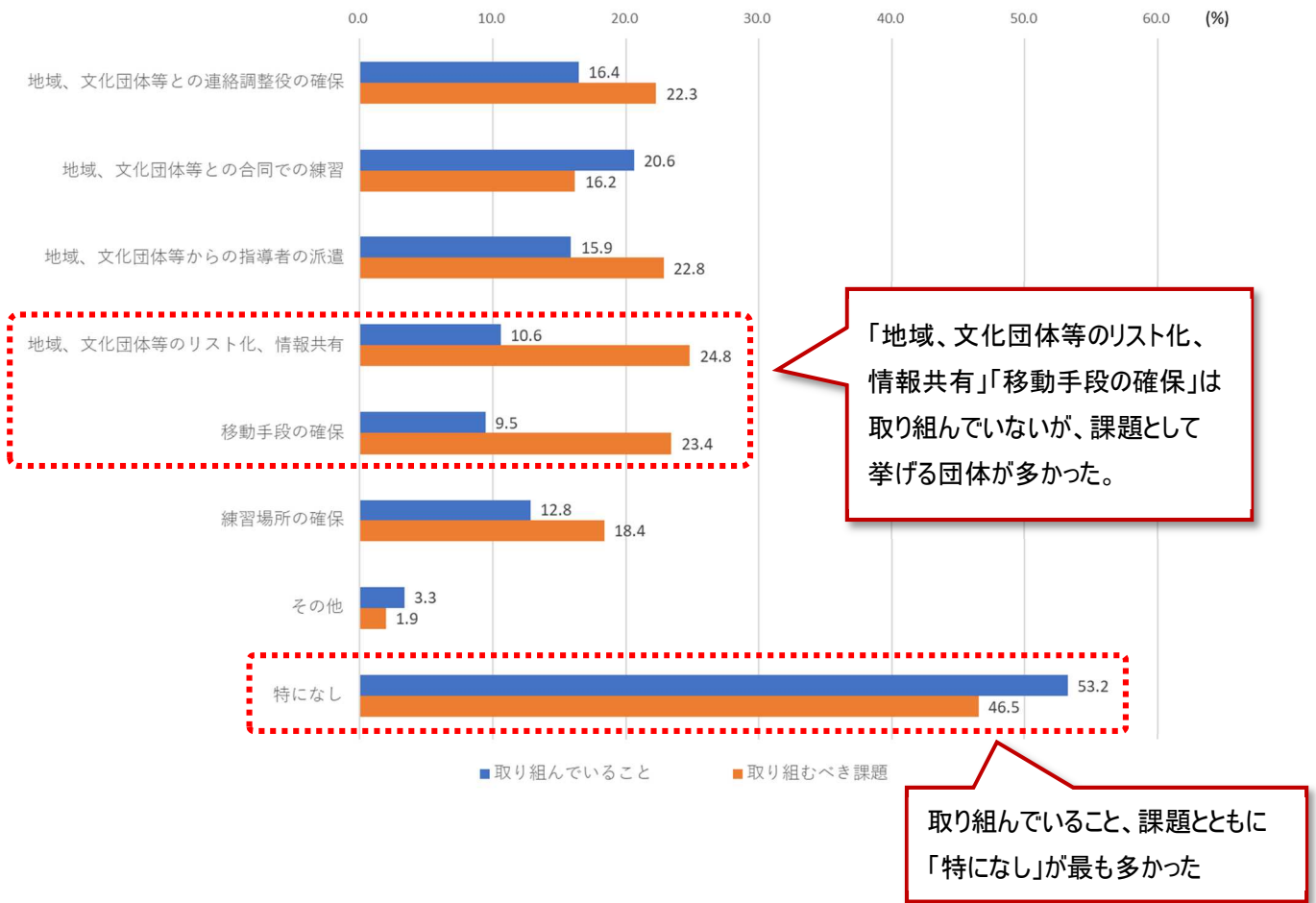
- ・すべての外部指導者に顧問の方針を明確に伝えるための工夫。わかりやすい文章化など。

取り組むべき課題

- ・外部指導者招聘のため予算組に関する部活動格差
- ・すべての外部指導者に顧問の方針を明確に伝えるための工夫。わかりやすい文章化など。
- ・人選 (技術的に優れていても、学校の方針に反したり教育的観点不足している場合は問題)

10. 地域、文化団体との連携について取り組んでいること、取り組むべき課題

Q3_6 地域、文化団体との連携について取り組んでいること、
取り組むべき課題について該当するものをすべて選択してください。 (n=359)



※「その他」の主な回答

取り組んでいること

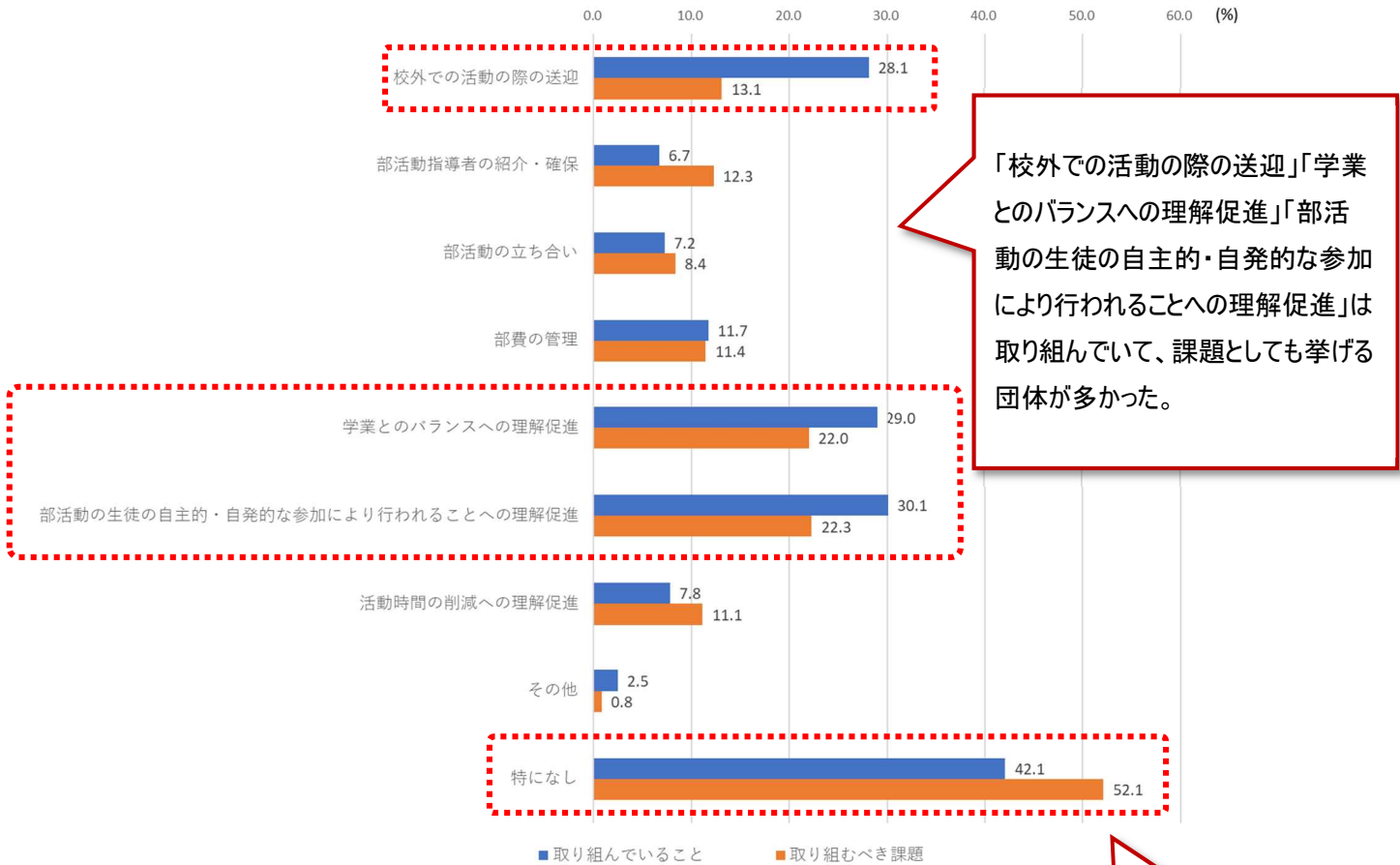
- ・地域や文化団体のイベントへの生徒の派遣（運営スタッフや参加者として）【4件】
- ・合同でコンクール、コンテストなどへの参加や主催【3件】
- ・地域、文化団体等主催の講習会・技術研修会への参加【2件】
- ・合同練習

取り組むべき課題

- ・予算の確保（文化部は予算の裏付けがなく（運動部に比べて生徒会予算が少ない等）生徒や顧問の負担が大きい。）【3件】
- ・日程の調整
- ・地域文化団体が活動していないため交流連携がしづらい。

11. 保護者との連携ですでに取り組んでいること、取り組むべき課題

Q3_7 保護者との連携ですでに取り組んでいること、
取り組むべき課題について該当するものをすべて選択してください。 (n=359)



「校外での活動の際の送迎」「学業とのバランスへの理解促進」「部活動の生徒の自主的・自発的な参加により行われることへの理解促進」は取り組んでいて、課題としても挙げる団体が多かった。

取り組んでいること、課題とともに「特になし」が最も多かった

※「その他」の主な回答

取り組んでいること

- ・ 展覧会等の鑑賞促進
- ・ 部費等運営に関する経費への協力【2件】
- ・ 部費の収支報告【2件】
- ・ 校外での活動の際の機材等の運搬
- ・ 活動への保護者の立ち会い

取り組むべき課題

- ・ 活動方針に対する理解
- ・ 校外での活動の際の機材等の運搬

12. その他、文化部活動に関するガイドライン作成にあたって、求めることや課題

<文化部と運動部の予算面や活動環境での待遇格差>

- ・吹奏楽部を除く文化部(各学校で特色のある部活としている特定の部活を除く)は活動実績の理解が得られにくいので運動部の目を気にしながら活動しているところがある。特に、動きを伴わない文化部活動について、その活動を大切にしてもらえるような環境が整って欲しいと感じる。(「動きを伴う」とは演劇・ダンス・書道パフォーマンスなどテレビ映えするような活動と考える)
- ・部費や活動環境の整備などにおける運動部との格差の縮小について、管理者は努力すること。
- ・運動部と違って予算の確保が難しい。とくに楽器の運搬等の経費の捻出が難しい。
- ・予算の関係で運動部と文化部の統一性がほしい。文化部の予算がどの学校も話を聞くとかなり低い金額で、活動の幅が狭い。
- ・活動するために、茶器や花器、消耗品など予算が必要であるが、十分でないために活動が制限される。予算を十分かけられないのが課題。
- ・大会参加に係る費用の補助。中体連等は基本的に子どもの参加費(交通費・宿泊費)等の補助があると思う。現在、文化部(ロボコン)に関しては基本個人負担となっている。中文連に関する活動も中体連と同等の扱いをお願いしたい。

<文化部同士の格差>

- ・高文連がない部活動に対する支援が増えるとよいと思う。
- ・コンクールを主催する合唱連盟は、中・高・大学・一般すべての合唱団に関わっており、中や高との連携ができていない。(全国総合文化祭での合唱の出場が少ない。)

<実効性の高いガイドラインの作成>

- ・土曜日、日曜日の活動は原則的にしない、もしくはさせない等といったことを全国で徹底し、学校間や地域間で取組の差が生じないようにしてほしい【2件】
- ・現在、運動部のガイドラインは現場では守られていない。それを管理職が徹底するという姿勢も見られず、学校や部ごとに独自の解釈をして、都合のいいようにしている。文化部でも同様のことが起きないように、ガイドラインを通達する際に、保護者向けのプリントを文科省から配布し理解を得る努力をしていただきたい。
- ・ガイドラインを守っていない学校は大会に出られない、等のルールも同時に定めて、安全に活動ができるよう、配慮していただきたい。教員・生徒両者の普通の生活を守るためにも、より強い文言での通達を希望する。
- ・ガイドライン作成にあたって何か強い拘束力がなければ、生徒や保護者は活動を縮小することに対して納得できないと思う。現状は休養日を教育委員会に報告するなど、結局顧問の仕事が増えただけである。

<公立校と私立校の格差>

- ・ガイドラインは公立校には強制力を生むが、私立高には強制力が及ばないので学校間格差が生じる。
- ・運動部のガイドラインについて、私学の方とは足並みが揃っているのか。国公立だけこういうことを進めて、何倍もハードにやっている私学には何もしないのでは、格差が開く一方だと思う。それを「資質・力量・指導力」のせいだけにはしないで頂きたい。

<柔軟性の高いガイドライン作成の要望>

- ・文化的なものを集団でつくりあげるには時間がかかり、文化部は種類（分野）も多岐にわたる中で、専門知識のある顧問がその学校にいるかないか等でも、活動の在り方が大きく違ってくるので、運動部のように一律にガイドラインを適用するのではなく、現場、現場での状況、事情を考慮して欲しい。【13件】
- ・体力を使う運動部の活動と文化部活動を同じ尺度で考えるべきではない。また、冷暖房完備の文化部と運動部では、あまりにも活動環境が違う。【2件】
- ・合唱部や吹奏楽部は文化部のなかでも、活動時間の長い方だと思うが、特定の時期にコンクール等が集中しているため、年中、活動が長時間にわたるのではなく、限られた時期（特に夏季休業中）のみである。今年度より県教育委員会の指示により、運動部活動のガイドラインをそのまま文化部活動にも当てはめた部活動運営をしているが、前年までは平日5日と土曜日の週6日を活動日としていた。（夏季休業中は1日練習とし、部員は3年の9月に部活動から引退していた。）それでも、勉学第一としていたため、卒業生の多くは第一志望への進学を果たしている。
- ・吹奏楽は演奏技術の習得には時間がかかるし、本来、毎日練習しなければ実力は落ちるものであり、かつ、練習場所も形態も制限が多いため、一律に活動時間を制限されるとレベルの低下を招き、生徒の楽器習得の意欲も低下する。また、活動している学校で技量、目標も異なるためすべてが一緒では活動に支障を来すと考える。部活動の教育的効果は決して低いものではないので、現場で直に生徒を見ている者の声を十分拾って頂きたい。【3件】
- ・放送部の場合、大会前の一定の期間が集中的に忙しい。

<練習時間の確保の要望>

- ・クラブの時間短縮や削減と言われ、補習や補講が優先されしかし、クラブとしての結果を出していかねばならず、生徒が練習できるのが土日、夏休みしかない。練習時間を確保してほしい。
- ・生徒や保護者の理解を得て、練習量を減らすことは難しい。生徒たちは「練習はいやだ」といいながら結果を出すために練習をしないといけない。練習したいと思っている面もある。うまく手綱を握れるように促すガイドラインであってほしい。
- ・競技かるたの大会の場合、勝ち残るためには1試合1時間30分前後の試合を1日で最大7試合行う必要もあり、休日に3～4時間程度の練習しかしないのであれば、対応できない。

<教職員の指導力向上に向けて>

- ・指導者の指導力向上が一番大事だと思うが、地方の学校だと東京などでの講習会などへの参加が費用と日程の面で非常に難しく、参加できない状況にある。また、東京から講師をお呼びするための費用もなく、県内の少ない講習会への参加や、近隣の学校との合同練習会をもったりしながら生徒の意欲と技術の向上を図っている。
- ・それぞれの地域での教師対象の講習会を実施していただけるシステムづくりを要望したい。また併せて生徒対象とした講習会の講師派遣や会場の確保等についてもお願いしたい。
- ・教員の指導力向上のための研修会を開催しても、生徒の教科指導や生活指導で多くの時間を取られるため、参加しにくい状況にある。

<部活指導員・外部指導員について>

- ・運動部と違って、専門的な技能を持っている先生が少ないため、外部指導者が確保できるのなら望ましい。【2件】
- ・本校美術部は土日休み、平日毎日17時まで美術室を開放し、部員は好きに活動しているが、様々な実態の部活動があると思うので、当美術部のような活動方法の是非が分かるように具体的なガイドラインが作成してほしい。(自分自身は負担とっていないが、毎日活動するとなると、活動が時間内に終了しているかの確認や、部屋や鍵の管理等を毎日するため教員の負担はあると思う。)他にも、学校ごとに授業の終了時間や退校時間が異なるが、本校は授業が遅く終わり、退校時間が早いいため、そうでない学校とでは同じ活動日数でも差が出てくると思う。教員の負担軽減を中心に考えると、退校時間云々抜きに、17時までに全部活は活動を終了すべきだと思う。ただ、それでは不平等が出るので、外部講師との連携が重要になると思う。外部講師との連携方法について充実したガイドラインになることを望んでいる。
- ・実際に学校が外部指導者を招聘する場合、予算が大きな壁になる。【2件】
- ・本校は前年度大会成績等により、強化指定校になっているため振興育成費という補助金を頂戴しているため、外部指導者を呼べる部もある。
- ・外部指導者の謝礼金について、運動部指導者は年間10回～15回支給されているが、文化部指導者謝礼金については、文化部全体で10回～15回ということもあり、十分な謝礼金が支払われていない。校内的にはPTAから支払われる制度が本校に確立されているが、公のところでもっと援助する必要があると思う。
- ・学校の実態に即した人材確保が課題(情報収集も含めて)【2件】
- ・外部指導者に対して要求すべきことを、ある程度明確にしておく必要があると思う。顧問にとって、外部指導者によっては、その関係は、かなり大きなストレスになる可能性がある。例えばその分野で高名な指導者であればあるほど、自分のやり方に固執する傾向があり、また、ほとんどの場合顧問よりも年長者となる。外部指導者を受け入れることが、顧問の負担増になってしまわないための方策を考えて欲しい。
- ・外部指導員が指導中の責任の所在を明確にしてほしい。外部指導員に来てもらっても責任の所在が学校にあるのなら顧問は必ず部活につかねばならない。ガイドラインを作るに当たってそのあたりどうするのか明確にしてほしい。
- ・外部指導者の増加は教育的にも教員の負担軽減にも良い解決策とは言えない。
- ・指導員を入れても、学校で行われる限り、教育の観点が重視されるのではないか。
- ・外部指導者の導入によって、混乱をもたらすことが多い。部活動の指導は顧問教諭が行うのが最良なので、教諭が指導に専念できる環境を作るべきである。たとえば事務職員を増員して、教諭を一切の事務的業務から解放すればよい。
- ・近年、大きな問題に感じるのは、指導者(教員顧問)の減少である。大会や発表会、展覧会を運営するにはどうしても教員の指導者が必要で、外部指導員や管理顧問が増えるのはいいことですが、外部指導員が増えれば増えるほど、管理顧問も増え、発表会の運営に携わる人材不足が加速する。それが、すでに教員顧問や力のある指導者を圧迫している。大会の運営面こそ、外部の方に入ってもらえるようにならないだろうか。運営面での負担が減らせれば、その分、生徒に直接関われる時間的余裕が生まれ、その分、1回ごとの指導内容が濃くなり、それが指導の効率化につながると思う。運営面に外部の方に入ってもらいたいと言っても、教育活動の一環の発表会である以上、教員の顧問が関わらないわけにはいかない面もあり、だからこそ、教員顧問の減少がこれ以上進まないようにする視点が求められると思う。これ以上、教員顧問が減少していくと、運営に携わる指導者ひとりにかかる負担が大きくなるばかりである。

<教職員の負担>

- ・顧問が一人だと、指導や引率などの調整が難しくなる。全員が部活動を担当し、顧問も複数で担当することが望ましい。校内での仕事量の均質化を図り、総合的にみて主顧問と副顧問の仕事の分担量を同様にしてほしい。【4件】
- ・各バンドが日替わりで入れ替え立ち代り活動している。生徒側にすればクラブのない日があるが、教員側（顧問）は毎日付添指導があり、休養日が取れないのが現状である。
- ・吹奏楽部は文化部に分類されているものの、活動時間はとても長い。特にグラウンドや体育館など場所の共有もないので、全日練習の連続が教員にとっても負担が大きくて困っている。技術的な指導は外部指導者をお願いしているものの、外部指導者だけでは部活動が行えないので、結局は教員が付き添いのために土日も出勤している。また、「楽器は1日吹かないと3日分取り戻すのに時間がかかる」という考え方が吹奏楽界に浸透しているので、テスト1週間前であっても朝練をしたいという生徒の声が多い。他の業務もたくさんあるなかで、音楽の教員が非常勤なので負担が大きいと感じている。
- ・専門外の顧問になった場合、指導のために、自身の技術を向上させるべく、勤務時間外で勉強することが必須となる。（本を読む、土日や夜の研修会に参加するなど）主顧問になってもその他の校務・授業が減らされるわけではないので、単純に負担が増す。また、部活動内での生徒間のトラブルも必ず出てくるので、そちらの生徒対応にかかる時間も多し。もちろん、生徒のことをきちんと見たいし、指導力向上にも努めたいので、プライベートの時間を削って部活動に関わろうとしている顧問が非常に多い。そういった、勤務実態にも踏み込んだガイドライン作りをしていただけるとありがたい。
- ・大会やコンクールなど多数あり、生徒や保護者の求めるものに答えるためにはある程度の練習が必要である。多忙化とのバランスをどうやってとっていけばよいか、悩み多き教員への相談活動など対応を期待したい。
- ・大会引率枠の拡大 における教員の勤務負担の軽減
- ・文化部が運動部と大きく異なると感じるのは、大会など、活動の発表の機会が、年間を通して多くないということである。（大きな発表会が1年に1回ということもある。）そこで、その発表の場に向けて集中的に活動をし、他の時期は比較的活動日を少なくするなどの調整をしながら、指導者たちの多くが計画を立てている。そのため休日の活動時間の設定について、活動時間を休日は3時間と定められてしまうと困る。激しい運動をするわけではない場合、休日にまとまった時間を活動する方が、圧倒的に指導効率が良いと言える。休日にまとめて活動できなくなると、指導者にとっては逆に平日の負担が増え校務を圧迫し、生徒に対する指導の質が下がることが予想される。

<部活の強制制度について>

- ・部活動の強制入部の制度は、どの学校においても廃止すべきである。運動部に入るのが嫌で、仕方なく文化部に入部する生徒が多く、指導する際の負担が大きい。
- ・ほとんどの学校が3年間、または1年生次で全員部活に所属が原則となっている中、学校によっては、その原則を守るあまり、運動部に入りたくない生徒が文化部に流れ文化部が溢れ正常な活動が困難になることがある。文化部はあくまで文化部の活動をする場であって上記原則を守るために、名前だけの所属場所を作る場所ではないことを改めて周知確認していただきたいと考える。

<活動時間の長期化・競争主義について>

- ・活動時間開始、終了時間の設定等、活動を制限・縮小してほしい。【2件】
- ・一生懸命取り組むのはよいが、教師にも生徒にも過労がないようにしてほしい
- ・運動部の大会時期とコンクールや全国文化祭と違っているため、合唱部は夏休み中ずっと活動している状況がある。(中3生徒が引退できない)
- ・高校生の本分は学業であり、部活動はあくまで課外活動であることを、生徒、保護者、教員、地域住民等が強く認識することが必要であると考えます。
- ・週末の活動は大会前のみなので、どうしても平日の活動は8時下校となる。教員の残業代は無く、疑問も多いが、県は朝課外も認めず朝の活動も不可能なので生徒の活動時間を確保するには仕方ない。運動部も芸術も勝敗を付けるやり方が、学校制度の中にも浸透しすぎていて、加熱は収まらない。

<大会に関する制限>

- ・参加する大会の制限はかなりかけたほうが良い。大会のせいで生徒も教員も休養できない。
- ・大会の時期の見直しにおける拘束時期の見直し
- ・全国大会等は、週あたりの活動日数でカテゴリーをして競う。・平日のみ活動カテゴリー・平日&土曜に活動カテゴリー・平日&土日も活動カテゴリーのように。土日頑張る部活は、土日頑張る部活同士で競って欲しい。

<校外での受け皿>

- ・部活動への参加は、希望する教員と希望しない教員がいる中で、断っても担当せざるをえないような状況があります。勤務時間や勤務日を考えると今後はやはり外部での活動に移行せざるをえないと思います。数十年前からいわれている状況が全く変わっていないというのは、憂慮すべきことだと思います。また、保護者の意識としても、より専門性を求めてくる傾向にあり、中学校の教員が授業や様々な仕事と平行してやるのはとても大変だと思います。
- ・指導員を入れても、学校で行われる限り、教育の観点が重視されるのではないかと。学校に指導員を入れるのではなく、完全に地域のサークルなどに移行しなければ、結局のところ、教員の負担はあまり変わらないと思う
- ・文化部でもものづくりをするにあたって、30分や1時間で納得のいくいいものができて仕上がるかという、試合をするわけではないので自分との戦いが中心となるため、なかなか達成感が感じられる程のものにはできないのではないかと。部活動でそういう制限をするのなら、制限選考ではなく、きちんと各地域に受け皿をつくり、校外で納得のいく活動のできる組織を行政の予算で支援して作るという構想、考え方の大転換が必要ではないでしょうか。
- ・今のところ本校の美術部の生徒は、それが職業にはならないが、生活の中の潤滑油的な活動で、卒業後も両立させていくと思う。学校の部活動は趣味で、職業にしたい人はアウトソーシングで、とはっきり分けることが大事と思う。
- ・部活動を外部(地域)に活動を任せるのなら部活動を学校でやる意味があるのでしょうか。

<連携した部活動運営>

- ・生徒数、部員数が減ることが見込まれる。学校の部活動単位では充実した活動ができなくなる。地域の団体として、大人と学生の垣根を越え、学校間の垣根を越えて活動できるのが望ましい。(都市部では考えにくいことかも知れません。)過度な競争を避けて、文化活動の楽しさを子供たちに伝えられる方向へシフトしていけるとよい。

以上